

(別紙様式3)

2020年3月27日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 静岡県静岡市葵区追手町9番6号
管理機関名 静岡県教育委員会
代表者名 木苗 直秀

2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

2019年5月16日(契約締結日)～2020年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 静岡県立榛原高等学校

学校長名 渡邊 昇司

類 型 グローカル型

3 研究開発名

HAFプロジェクト HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT

～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～

4 研究開発概要

(1) 目的・目標

ア 住み続けられるまちづくりを実現するための課題発見・解決型学習の研究開発

地域についての確かな理解と、グローバルな視野を併せ持つグローバルリーダーを育成する。

イ パートナリシップで目標を実現する生徒を育成するための研究開発

国内外でのフィールドワークを通じて、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、協働して能動的に学び続けることができる人材を育成する。

ウ 質の高い教育を実現するための研究開発

産学官の連携により、地域と学校が一体となって生徒を育成し、持続可能な社会システムを構築する。

(2) 概要

- ア 特色ある科目や課外活動によって、グローバルな視野と国際感覚の醸成を図る。
- イ 課題解決型学習の実践により、他者と協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身に付ける。
- ウ 英語による対話力やディスカッションの力を身に付け、コミュニケーションスキルを向上させる言語活動の充実を図る。
- エ 産学官連携協力体制を構築し、フィールドワーク等を通して地域の企業研究と働くことの意義についての学びを深める。
- オ 新教育課程施行に向けての教育課程研究を進める。

5 教育課程の特例の活用の有無
有

グローバルリーダー育成のための課題解決型学習を行う学校設定教科「地域創造探究」を開設し、総合的な探究の時間の代替科目とすることを目指し、カリキュラム開発を行う。

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程										
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指定校への指導 助言	←										→
コンソーシアム会議 運営指導委員会		○			○					○	
コアスクール サイエンススクール	○					○			○		

(2) 実績の説明

(1) コンソーシアムについて

① コンソーシアムの構成団体

静岡県立榛原高等学校、静岡県教育委員会、牧之原市、静岡県地域外交局、
静岡大学教育学部、矢崎部品株式会社、ふじのくに茶の都ミュージアム、
島田掛川信用金庫、牧之原市民、牧之原市小中学校・静岡大学大附属小中学校
【事務局】 静岡県教育委員会高校教育課、静岡県総合教育センター

② 活動日程・活動内容

ア コンソーシアム全体

活動日程	活動内容
令和元年5月17日 ～6月5日	コンソーシアムについての協議開始 各構成団体と事業計画の確認
令和元年6月25日	コンソーシアムを組織、委員の委嘱 2019年度事業についての概要説明（文書発送）
令和元年7月16日	コンソーシアム及び運営指導委員会についての協議
令和元年9月19日	第1回コンソーシアム会議・運営指導委員会 ・事業計画の説明・承認、生徒の取組状況等の報告 ・2019年度事業（5月～8月末までの）事業報告 ・学習成果報告会 国内（沖縄）、海外（アメリカ）研修報告
令和2年2月7日	第2回コンソーシアム会議・運営指導委員会

イ 各構成団体

構成団体	活動内容
牧之原市	地域リーダー育成プロジェクト（答志島サステイナブルキャンプ・さいたま市ファシリテーション講座） 牧之原市長講話 学習成果報告会（模擬請願）コロナ対応で中止
静岡県地域外交局	海外研修
静岡大学教育学部	静岡大学教育学部・榛原高等学校連携協定締結 カリキュラム開発の支援 フィールドワーク（総合的な探究の日）
矢崎部品株式会社	海外研修 企業人講話
ふじのくに茶の都ミュージアム	フィールドワーク（総合的な探究の日）
島田掛川信用金庫	企業人講話
牧之原市民	ファシリテーション・グラフィック研修
牧之原市小中学校 静岡大学大附属小中学校	小学校への英語出前授業 牧之原市、吉田町等の中学校（中学生及び教職員対象）においてグローバル事業の説明会実施

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

カリキュラム開発アドバイザー（静岡大学教育学部 講師 島田桂吾）

海外交流アドバイザー（株式会社JTB静岡支店教育営業課 望月雄太）

② 活動日程・活動内容（主なもの）

<カリキュラム開発アドバイザー>

活動日程	活動内容
令和元年6月14日	本年度の事業計画についての協議 高大連携事業について協議
令和元年7月29日	静岡大学教育学部との連携事業（報告会他）
令和元年9月19日	第1回コンソーシアム会議・運営指導委員会
令和元年11月20日	カリキュラム開発に関する協議 次年度の事業計画についての協議
令和2年2月6日	令和元年度の事業についての協議及び次年度の事業計画についての協議（予定）
令和2年2月7日	第2回コンソーシアム会議・運営指導委員会（予定）

*メール等を活用し、事業について随時指導助言を受けている。

<海外交流アドバイザー>

活動日程	活動内容
令和元年6月25日	アメリカ研修に関する協議
令和元年8月5日	アメリカ研修（生徒の事業所訪問）事前研修受け入れ
令和元年9月19日	第1回コンソーシアム会議・運営指導委員会
令和元年10月10日	台湾研修に関する協議
令和元年12月20日	ヴェトナム研修実施についての協議
令和元年12月22日	全国高校生フォーラムへの参加（見学）
令和2年2月7日	第2回コンソーシアム会議・運営指導委員会

(3) 地域協働学習実施支援員について

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

地域協働学習実施支援員 牧之原市企画政策部 地域振興課 課長 田形正典

② 実施日程・実施内容（主なもの）

活動日程	活動内容
令和元年7月3日	地域リーダー育成プロジェクト（課外活動）についての協議 生徒募集及び事業計画（年16回）についての協議
令和元年8月26～27日	答志島サステイナブルキャンプ（課外活動）への参加者（19人）への支援
令和元年11月23～24日	さいたま市ファシリテーション講座（課外活動）への参加（30人）への支援
令和2年2月7日	第2回コンソーシアム会議・運営指導委員会

*地域リーダー育成プロジェクト（年16回）に関連し、随時来校し打合せ等を実施している。

(4) 運営指導委員会について

① 運営指導委員会の構成員

堀川知廣（静岡産業大学情報学部学部長）、亀坂安紀子（青山学院大学経営学部教授）
菅野文彦（静岡大学教育学部教職センター長）、渋江かさね（静岡大学教育学部准教授）、
玉置実（財）静岡経済研究所主席研究員）、白井実（株式会社伊藤園静岡相良工場長）、
渡辺浩（TDK株式会社国内人材開発統括部人事部課長）

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
～令和元年6月20日	運営指導委員（予定者）と事業計画の協議及び確認
令和元年6月25日	コンソーシアムを組織、運営指導委員の組織、委嘱 2019年度事業についての概要説明（文書発送）
令和元年7月5日	静岡大学教育学部との連携協定締結 コンソーシアム及び運営指導委員会についての協議
令和元年9月19日	第1回コンソーシアム会議・運営指導委員会 ・事業計画の説明・承認、生徒の取組状況等の報告 ・2019年度事業（5月～8月末までの）報告 ・学習成果報告会 国内（沖縄）、海外（アメリカ）研修報告
令和2年2月7日	第2回コンソーシアム会議・運営指導委員会

(5) 管理機関における取組について

① 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

県の事業として魅力ある学校づくり推進事業を実施し、コアスクール 39 校を指定し
高等学校の特色や現状に応じた取組を支援した。7月24日、1月28日に指定校の情報
交換会を開催した。

S S H指定校を除く理数科設置校9校をサイエンススクールとして指定し、国際的な
科学技術系人材の育成及び地域における科学教室を実施した。また、連絡協議会では各
指定校の取組とともにS S H指定校の実践の紹介を行った。

② 事業終了後の自走を見据えた取組について

榛原高等学校の特色や現状に応じた取組を継続的に支援していく体制作りを検討して
いく。

③ 高等学校と静岡大学教育学部との協定文書等の締結状況について

静岡大学教育学部と榛原高校の間で「静岡県立榛原高等学校と静岡大学教育学部・教
育学研究科と相互連携に関する協定」を7月16日に締結した。榛原高校のカリキュラム
開発、教員研修及びキャリア教育、静岡大学の教育実習及び調査研究について、相互に連
携活用することとなった。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な探究の時間における地域探究学習	2回	2回	2回	2回		2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回
「現代社会」における課外活動（希望者）							1回	1回	3回	1回	1回	1回
グローバル部における課外活動				3回		3回	3回	3回	3回	3回	2回	2回
その他の活動（国内外研修等）					2回				1回			

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

グローバルリーダーを育成するため、課題発見・解決型学習の研究開発を行うとともに、これからの時代に求められる質の高い教育を実現するため、産官学連携により、地域と一体となった教育活動の研究開発及び実践を行った。研究開発内容は、以下のとおりである。

ア 総合的な探究の時間（榛高タイム／地域創造探究Ⅰ）

1年生の総合的な探究の時間において、研究開発及び授業実践を行った。また、海外研修や企業訪問など希望者が参加した他のプログラムでの学びを全生徒で共有する取り組みも実践した。

イ 実社会プログラム（課外活動）

地域課題の解決に関連した課題解決学習の研究開発及び実践を総合的な探究の時間と公民科（現代社会）で連携して実践した。

ウ 英語／グローバル部（課外活動）

部活動として、ALTの協力のもと定時制課程に在籍する外国籍生徒との交流会を企画し、定期的の実施する研究実践を行った。また、地元企業と連携し、地元の小中学生も参加するイングリッシュキャンプのサポートを行い、定期的実践するための研究開発を行った。

エ 教育課程の研究開発

総合的な探究の時間と、グローバル事業に関連した学校設定教科の設置のため、先進校視察を計画・実施した。

オ その他の活動

学校評議員会において、コミュニティスクールへの移行についての研究を行った。

牧之原市の地域リーダー育成プロジェクトに参加し、行政機関との連携に関する研究を行った。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

ア 総合的な探究の時間（榛高タイム／地域創造探究Ⅰ）

1年生の総合的な探究の時間において、研究開発及び授業実践を行った。

本年度の「総合的な探究の時間」は、次年度以降の学校設定教科・科目化をめざし、年間指導計画、シラバスの作成、学習評価の研究及び使用する教材の研究等を実施した。

具体的には、学校設定教科・科目化に向け先進校視察等を行い、校内で協議を行った。本校の生徒につけたい力を8つに分類し、総合的な探究の時間のそれぞれの時間の目標を8つの力に関連付けた。また、生徒自身が身につけた力を自己評価できるようルーブリックを作成している。1年間の取組を1冊にまとめ、学校設定科目として開講する準備を進めてきたが、教科横断的な視点から他教科との融合することにより学習効果を更に高めることができるのではないかと意見が挙がり、実現が可能か検討を開始した。

【年間指導計画と実施内容（抜粋）】

実施項目	時期	内容
ファシリテーション・グラフィック研修	5月	牧之原市市民ファシリテーターの協力によるファシリテーション及びグラフィックの講習。
牧之原市長講話	7月	牧之原市長による講演 牧之原市の現状と課題及び将来の展望について学ぶ。
企業人講話	7月	地元企業関係者による講演 牧之原市周辺に事業所が立地する意味や、企業の経営戦略等について学ぶ。
総合的な探究の日	11月	静岡大学教育学部、静岡県立美術館、茶の都ミュージアムへのフィールドワーク
地域課題探究	9～3月	<p>牧之原市周辺地域の活性化のための意見書の作成 市長講話、企業人講話、企業訪問（希望者）等で学んだことを踏まえ、ファシリテーションの手法を活かして、グループでテーマを設定、課題発見・解決型学習を行う。</p> <p>学習成果は、グラフィック研修で学んだことを利用し、各クラス内でプレゼンテーションを行う。また、優秀なグループは学年発表及び牧之原市役所において発表を行う。</p> <p>なお、全国高校生サミットや海外（台湾）研修に参加した生徒（希望者）が、その成果を学年全体に普及させる。</p>

【研究成果と課題】

研究内容	成果と課題
年間指導計画（シラバス）	1 学年については、コンソーシアムの協力を得て年間学習指導計画及びシラバスの概要が完成した。 2 学年については、1 年生の開発状況と整合性を持たせつつ研究を進めた。 次年度に向けての課題は、3 年間を見据えた指導計画を作成することである。
学習評価	静岡大学教育学部の協力を得て、昨年度から開発に取り組んでいる学習評価についての研究について、今年度カリキュラム開発アドバイザーの協力を得つつ、開発を進めた。 ルーブリック表は以下のとおり。
使用教材	いくつかの教材を比較検討し、岡本尚也編「課題研究メソッド」を活用することとした。

【参考】

ルーブリック表 様高タイムで身に付いた力を自己評価しよう HRNO 氏名 _____

つけたい力	① 情報(文章、図、表など)収集・分析力	② 課題設定・解決力	③ 思考力 (論理的・批判的・創意的)	④ メタ認知力	⑤ 表現力	⑥ 協働力 (自己理解・他者理解)	⑦ 社会参画力 意思決定力
A 応用・広がり (Extensions) 	入手した情報(文・数値データ・絵等)を比較し、様々な角度から情報を分析、評価する。	適切に課題を設定し、課題の意義、可能性、限界を明確にする。課題解決に向けた解決策を創造する。	他者と自分の考えを比較、統合しながら新しい考えを創り出す。自分の考えを他の学習(各教科など)と関連づけて捉え直す。	自分の思考過程や活動過程を評価し、今後の活動を修正・計画する。(何を学び、自分の考えがどのように変わり、それを今後どう生かすか)	解釈を検討したり、仮説をたてたりして、自分の考えを適切な言葉で述べる。文章を推敲する。	互いの考えを伝え合い、合意形成に向けて発展的な対話をする。	現代社会の諸問題を自分事として捉え、より良い社会の在り方を提案する。
B つながり (Connections) 	複数ある情報を取捨選択し、信頼性のある情報を集める。	課題の意義を明確にし、課題解決に向けて事実を比較したり、分類したりする。	得た知識を比較・統合し、事実に対する自分の考えを構築する。他の学習(教科)とのつながりを考える。	自分の思考過程や活動過程の記録を通して適切に自己評価する。	自分の経験に当てはめたり、文脈に関連付けたりして考えを述べる。	互いの考えを伝え合い、相互に評価する。	現代社会の諸問題と自分とのつながりを解釈し、取るべき行動を考える。
C 考え・基礎知識 (Ideas) 	文章を読んだり、話を聞いたりして他者の考えを理解する。情報検索の際の基本的な情報スキルを理解する。	集めた事実についてどこに課題があるのかを理解する。	筋道を立てて、自分の考えを説明する。	自分の思考過程や活動過程を記録する。	適切な言葉や図等を用いて自分の考えを表す。	互いの考えを安心して伝え合う。	現代社会の諸問題について理解する。
D	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。
自己評価							

- ③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

ア 実社会プログラム

1・2年生の希望者（1年生 87人、2年生 15人）を対象に、地域と世界のつながりを踏まえた課題解決型学習を実践した。また、この取り組みは、総合的な探究の時間と公民科（現代社会）が連携して実践した。

加えて、本プログラムに参加した2年生15人には、海外研修（アメリカ）を課しており全国高校生フォーラムで発表を行うなど、中心的な役割を果たす生徒を育成するために設けられたプログラムである。1年生にも海外研修（台湾）への参加を強く推奨し、16人の生徒が研修に参加した。

なお、実際に校内発表会（ポスターセッション）などにおいて、中心的な役割を担い、推進役として活躍した。

【年間指導計画と実施内容】

実施項目	時期	内容
参加者募集	5月	1・2年生を対象に参加者募集 日経 STOCK リーグレポートコンテストへの参加
企業訪問	7月～11月	1年生 牧之原市周辺、静岡市の事業所訪問（5社） 2年生 静岡市、島田市の事業所訪問（3社） 各企業の経営戦略を学ぶとともに、製造現場を見学
金融経済教室	11月	外部講師による金融経済教室を実施
課題探究	9～2月	企業訪問、金融経済教室を踏まえ、地域経済活性化のためのレポート作成及び発表を実施

【評価と課題】

研究内容	評価と課題
金融経済教室	1・2年生希望者 63人参加 外部講師に依頼して実施。参加希望者が多く、教室が確保しにくいなどの課題があったが、参加生徒からは好評であった。
企業訪問	1・2年生希望者 89人参加 訪問先企業は、コンソーシアム協力企業を中心に、地元6社を訪問した。受け入れ側の都合もあり、日程調整が課題である。
課題探究 （日経 STOCK リーグレポートコンテストの活用）	23チーム（102人）参加 7チームが一次審査を通過。3チームが入選した。 学習成果については、公民科（現代社会）の授業や学習成果報告会（ポスターセッション）等において他の生徒への普及をはかった。

④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

推進主体	体制（分掌）	研究項目
学校長 （副校長）	教務課	新教育課程の研究 学校設定科目（教科）の研究 教科・科目間でのカリマネの推進及び調整
	研修課 1年部	グローバル事業の推進のための研修 総合的な探究の時間の授業改善推進

⑤ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

責任者	研究協力（支援）	分掌等	業務内容（教師の役割）
学校長 （副校長）	静岡大学（連携大学） カリキュラム開発アドバイザー、地域協働学習支援員、海外交流アドバイザーから指導・助言	教務課	学校設定教科・科目の研究 新教育課程の研究開発 年間指導計画、シラバスの作成
		進路課	キャリア教育の推進と人材還流に向けた研究開発・実践
		研修課	総合的な探究の時間の推進 職員研修の推進、国際交流事業の推進
		全職員	研究開発への協力及び実践

⑥ カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

カリキュラム開発アドバイザーは、主に以下の4点について指導・助言等を行った。「総合的な探究の時間」に係わるカリキュラム開発と学習評価、実社会プログラムに関する事業計画への指導及び評価、文理融合型カリキュラム開発への支援、コミュニティスクールの推進に向けた研究開発への支援。

海外交流アドバイザーは、本校が企画する海外研修についての日程調整、スケジュール管理への支援、治安情報の提供を主に行った。

地域協働学習支援員は、牧之原市の実施する地域連携事業について情報提供を行うとともに、地域リーダー育成プロジェクトを計画。本校生徒の参加について支援した。

【位置付けと役割】

役職	位置付けと主な役割
カリキュラム開発アドバイザー	本事業全体のコーディネートを行う。 外部委員、グローバル事業及び教育課程全般について指導・助言など。
海外交流アドバイザー	外部委員、海外の治安情報等の提供、研修に関するアドバイスなど。
地域協働学習実施支援員	外部委員、牧之原市との連携事業の仲介など。

- ⑦ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

学校長は、管理機関及びコンソーシアムと連携しながら、事業計画全体のコーディネートを行った。

【研究開発管理に関する校内組織】

計画立案	実践	検証・評価	改善の仕組み
学校長 ・副校長 ・理数科長 ・教務課長 ・進路課長 ・研修課長 ・地域連携推進監	全職員	生徒アンケート 保護者アンケート カリキュラム開発アドバイザー、地域協働学習支援員、海 外交流アドバイザーとの協議 コンソーシアム、運営指導委 員会への報告・評価、検証	アンケート結果など検証結果をもとに、改善案の作成及び次年度の事業計画への反映と、学校長へのフィードバック

- ⑧ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

コンソーシアムは、管理機関及び学校長と協力して、全体的取組と個別の取組を通じてカリキュラム開発に協力した。主な取組内容及び活動実績は、以下のとおり。

なお、活動実践にあたっては、学校担当者とコンソーシアム担当者で事前・事後協議を実施している。

	主な取り組み内容と活動実績
総合的な探究の時間	<p>【全般的取組】</p> 検証結果をもとに、改善案の作成及び次年度の事業計画への反映と、学校長へのフィードバック。企業人講話等への講師派遣など。 <p>【個別の取組（活動実績）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牧之原市民 ファシリテーション・グラフィック研修の企画、推進、講師派遣等における協力 ・ふじのくに茶の都ミュージアム 人材還流事業に関連して、地場産業（茶業）についての概要説明や施設（ミュージアム）見学について企画、運営についての協力、生徒受け入れなど。 ・静岡大学教育学部 企業人講話の企画、運営について協力、視察、評価。大学訪問の企画、運営についての協力など
課外活動	<p>【全般的取り組み】</p> フィールドワークへの支援、事業所訪問、海外研修等における生徒の体験学習への支援及び、グローバル部の活動への支援など。 <p>【個別の取組（活動実績）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢崎部品（ものづくりセンター、台湾矢崎事業所） 事業所訪問の受け入れ（牧之原市、台湾）

	ステークホルダーミーティングなどを通じ協議・支援体制の構築 ・静岡県地域外交局 静岡県台湾事務所訪問受け入れ、渡航情報、治安情報の提供 ・島田掛川信用金庫 地方創生研究発表会の企画・運営、生徒参加への支援
その他	牧之原市は、地域リーダー育成プロジェクトの企画・立案を通じて支援・協力を行った。 静岡県教育委員会は、主な事業の視察等を通じてグローバル事業全体を統括し、コンソーシアムと協力してカリキュラム開発推進状況の確認を行った。

⑨ 運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員は、本校の事業に対する指導・評価に加え、事業推進にあたり講師の派遣等を行うなど個別の事業に対しても支援を行った。また、静岡県教育委員会とともに、事業全体を統括するとともに、カリキュラム開発の支援を行った。

また、本年度は、ポスターセッションなど生徒の活動についても視察を行った。

運営指導委員会の指導・助言内容については、校内委員会にて検討を行い、迅速に事業に反映させた。特に、保護者へのアンケート実施は、保護者が本校の事業の評価者として位置づけられたことに加え、生徒とは違う視点で評価を得ることができた。また、保護者が、本事業に係わるステークホルダーとしての役割を果たすこととなった。

【運営指導委員会】

運営指導委員会	主な指導・助言の内容
第1回 (9月)	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な学生（生徒）の確保には、親の理解と協力は不可欠。榛原高校の取組を保護者に広めることが大切。また、保護者の評価についてアンケート等を実施し、検証を行う必要がある。 ・費用の問題があり、海外研修は負担が大きい、大学ではワーキングホリデーの活用などがある。高校でも同じような仕組みを導入すべきで、安価に外国人との交流を図る方法を探るべき。
第2回 (2月)	<ul style="list-style-type: none"> ・「地元の外国籍の子供と交流してほしい」 ・第1回運営指導委員会の指導助言の内容が、事業に反映されている。 ・短い期間に複数回海外に行く生徒を増やし、研修に参加していない生徒に対して発表をすることで急速に変化する国際社会を体験できるのではないか（日本が裕福でなくなっているということが、海外研修で味わえるのではないか）。 ・日本人学生（生徒）に地元のことを学ばせて、地元に戻そうというのは日本の将来のためになるんだというアピールが必要。

⑩ 類型毎の趣旨に応じた取組について

国内外研修の実施及び各発表会への参加、イングリッシュキャンプの企画・運営を行った。実施にあたっては、総合的な探究の時間での学習成果に加え、公民科、英語科の協力のもと実践した。詳細は以下のとおり。

ア 国内外研修

国内の研修先は、日本国内で海外とのつながりを最も感じられる沖縄県とした。沖縄科学技術大学院大学（OIST）訪問、琉球大学での模擬授業等を体験した。

海外研修は、2年生を対象として、アメリカ（シアトル、サンフランシスコ）、1年生を対象として台湾（高雄、台北）を企画した。

アメリカ研修においては、地元企業（杉本製茶）の協力を得て、現地法人事業所（シアトル）を訪問し、地場産業と海外のつながりについて学ぶことを目的として実施した。また、地元生産拠点を持つ小糸製作所航空事業部の協力を得て、シアトル事業所及びボーイングエバレット工場を視察し、グローバルに事業展開する企業の活動を体験した。加えて、シアトル及びサンフランシスコの2都市で市内研修を実施することで、アメリカ社会の抱える諸課題（人種問題、経済格差、LGBT）について理解を深めることができた。

台湾においては、矢崎部品台湾事務所（コンソーシアム委員矢崎部品ものづくりセンターの支援で実施）を訪問し、グローバルに事業展開する企業の活動を体験した。加えて、静岡県台湾事務所（コンソーシアム委員静岡県地域外交局支援で実施）を訪問し、静岡県と台湾とのつながり、歴史・文化等について学びを深めた。また、飲茶体験や夜市を体験するなど異文化理解につながった。

これらの活動を行った生徒（1年生）を中心に次年度以降のグローバル事業を全校生徒に普及・推進させていく予定である。

【国内外研修先と実施内容】

研修先（対象・人数）	時期	内容
アメリカ （2年生・13人）	8月末	シアトル・サンフランシスコでのフィールドワーク 企業訪問や領事館訪問など。 グループでの課題解決学習を实践（テーマは「光産業」、 「海洋プラスチック」、「お茶」）。 学習成果は、レポートにまとめるとともに、全国高校生フ ォーラム等で発表。
沖縄 （2年生・15人）	8月末	名護・那覇でのフィールドワーク OIST訪問、外国人との英語による那覇市フィールドワ ーク、平和学習など。 学習成果は、地方創生に取り組む高校生発表会等で発表。
台湾 （1年生・16人）	12月末	屏東県、高雄市、台北市でのフィールドワーク 企業訪問や静岡県台湾事務所訪問など。 グループでの課題解決学習を实践（テーマ：異文化理解）。 学習成果は、レポートとしてまとめるとともに、校内 にて発表会を実施する。

イ 研究会・発表会への参加

【発表会への参加と発表内容】

研修先 (対象)	時期	内容
静岡健康長寿学術フォーラム静岡の未来を拓く「高校生及び大学生の活動報告」 (2年生・6人)	11月	「お茶と健康について」をポスターセッション参加し、発表を行う。 優秀賞受賞
全国高校生フォーラム (2年生・4人)	12月	「About regional activation by green tea ～through Taiwan and America～」をテーマにポスターセッションに参加し発表を行う。
静岡県高校生グローバル課題研究ポスターセッション (2年生・4人)	2月	「About regional activation by green tea ～through Taiwan and America～」をテーマにポスターセッションに参加し発表を行う予定。

ウ ESD (ESL) 教育 (イングリッシュキャンプ)

【イングリッシュキャンプ】

研修先 (対象・参加者)	時期	内容
榛原高校校内 (全校生徒・41人)	8月	チャップマン大学(Chapman University)、カリフォルニア州立大学(California State University)の学生8人を迎え、2泊3日で実施した。

⑪ 成果の普及方法・実績について

各事業終了後、学習成果報告書等の成果物を作成、パンフレットとして生徒及びコンソーシアム、近隣中学校等に配布し成果を発表するとともに、校内外で行われる研究会や発表会において成果報告を行った。

8 目標の進捗状況, 成果, 評価 (2月末現在)

設定目標	進捗状況 (目標)	成果 (延べ人数)	評価
外国語でのコミュニケーション能力の向上	英語検定2級以上合格者 (30人)	合格者 33人	達成率 90.8% 台湾研修の希望者が少なかつた。
	ESLプログラム参加者 (40人)	参加者 41人	
	海外希望研修 (米国) 参加者 (10人)	参加者 13人	
	海外研修 (その他) 参加者 (40人)	参加者 22人	
地域連携事業の推進	実社会プログラムへの参加者 (55人)	参加者 102人	達成率 148.7% 想定以上の参加があった。
	企業訪問参加者 (60人)	参加者 108人	
	地域リーダー育成PLへの参加者 (80人)	参加者 90人	
学習成果の発信	校内での成果発表の機会 (4回)	4回	達成率 100%
	校外での成果発表の機会 (3回)	3回	

<添付資料> 目標設定シート

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 総合的な探究の時間

1年生の総合的な探究の時間については、教育課程内での位置づけについて研究は進んでおり、申請時の方向性を維持している。

次年度に向けては、海外修学旅行を中心とした2年生の総合的な探究の時間の研究開発を行う予定である。また、学校設定教科(科目)の設定に向け、先進校視察などの取り組みを引き続き実施するとともに、教科横断的な視点を取り入れた研究を行う予定である。

(2) 課外活動

① 実社会プログラム

多くの生徒が意欲的に参加し、課題解決型学習としては十分な成果を上げることができた。一方で、台湾研修については30人程度を想定して募集したところ、17人(参加者16人)の応募にとどまった。このことから、海外研修の位置づけを再確認し、訪問先を含め再検討している。

② 部活動(グローバル部)

定時制課程の外国籍生徒との交流会や、地元企業と連携したイングリッシュ・キャンプへの参加など充実した活動を行った。次年度以降については、この活動をさらに発展させるとともに、活動内容を外部に発信する努力を行う必要がある。

③ 地域リーダー育成プロジェクト

牧之原市が提供する地域連携事業で、従来よりも参加しやすい形態となった、次年度以降も、校内で参加者を募り積極的に参加させる方向で牧之原市と調整を行っている。

(3) 新教育課程にむけて

コミュニティスクールに関する研究は、学校評価委員会等において検討がなされ、速やかに移行できる体制を構築するよう協議が行われた。また、連携先である静岡大学教育学部から学校評議員(評価委員)を迎え、研究を進める予定である。

教科横断型の探究、文理融合型カリキュラムの開発については、教務課及び校内委員会(教育課程検討委員会)において、協議が行われた。次年度以降は、より具体的な検討及びシミュレーションを行う予定である。

(4) 事業終了までの取組計画

① 事業計画の変更

海外研修について、アメリカ及び台湾研修において、牧之原市の立地条件(南海トラフ地震で想定される甚大な被害)から、地域の大きな課題である地震防災の観点を研修プログラムに加えることを予定している。また、台湾はベトナム(企業研修、平和学習などの研修プログラム)への変更を検討している。なお、昨今の国際情勢を踏まえ、国内研修をより充実させる方向で検討をはじめている。

② 事業の精選

来年度は、募集生徒数が1学級（40人）減ることが決まっており、これに伴い職員数の減少が予想されている。このことから、事業内容のスリム化を行う必要がある。また、全体の予算も昨年度より大幅に削減される予定であり、事業の精選についての検討を始めている。

【担当者】

担当課	教育委員会高校教育課	T E L	054-221-3165
氏 名	松本 新吾	F A X	054-251-8685
職 名	教育主幹	e-mail	kyoui_koko@pref.shizuoka.lg.jp